

相生中学校  
平成29年度  
学校通信

いそ  
**勤しむ**

桐生市立相生中学校  
平成29年10月24日  
NO. 17 文責：寺島

# 見せられた 空前絶後の 相生魂

無情の雨で一日順延となりましたが、翌日の9月29日（金）は抜けるような青空で、まさに体育祭日和となりました。晴天のもと、全校生徒が一丸となり、楽しみつつ本気の真剣勝負を展開し、スローガンに掲げられた「空前絶後の『相生魂』」をしっかりと見せてくれました。思うに「相生魂」とは、「進取の精神」のこと。「進取の精神」とは、人任せではなく自らの問題として事に当たり、最後まで粘り強く頑張る心のこと。だから…こんなにも面白くてワクワクドキドキの体育祭になったのでしょうか。



▲ラジオ体操



▲3学年競技「とれとれテール！！」



▲美術部による渾身のディスプレイ



▲体育祭の華「長縄跳び」



▲3年男子選抜リレー・スタート



▲3年女子選抜リレー・ゴール

## 合唱コンクールスローガン決定!!

# 咲き誇れ 響心奏歌 合唱魂 (こん)

スポーツの秋から芸術の秋へ…体育祭が終わった途端、相生中全体が新たな目標である合唱コンクールに向かって動き始めました。

既に合唱コンクール実行委員会によってスローガンも決定されています。3年2組の滝沼琉聖君のアイデアです。

滝沼君は、朝昼夕方と何度も何度も練習を重ねてきたその成果をみんなで咲かせようと力強く呼びかけてくれています。咲き誇るとい言葉から、ちょうどこの時期に大輪の花を咲かせる菊の花を連想しました。菊の花を咲かせるには丹念な手入れが必要となります。「めんどろだ」「たいへんだ」という思いを

おさえ、来る日も来る日も大輪の花が咲くことを思って地道な作業を続ける、それを支える心を滝沼君は「合唱魂」と呼んでくれていると思うのです。

思い出しませんか？体育祭のスローガンが「相生魂」だったことを。体育祭の「魂」から合唱コンクールの「魂」へ…。「進取の精神」つまり、自分がやるんだという思いを胸に、日々の練習を一生懸命やってください。そうすれば、「響心奏歌」きっと、聴く人の心に響く歌を歌うことができるのではないのでしょうか。そんな思いを込めて、寺島は、全校集会で次のように述べました。(表彰された人は次号でお知らせします)



冷房を入れるほど暑い日が続いたと思ったら、その後、一気に季節が進み、今度は暖房をつけたくなる日がやってきました。みなさん、体調は大丈夫でしょうか？昔から秋の気候は変わりやすいと言われてきましたが、本当にそのとおりですね。

その秋たけなわの今、学校全体が、季節にふさわしい学校行事に向かって動き始めました。もちろん合唱コンクールへの取組です。

その合唱コンクールに関して、相生中の合唱は、今年、大きな方向転換を行いました。もうみなさんご存じのとおり、課題曲が変わり、自由曲も前年度に歌われた曲をはずしたのです。

これは実に大きな変化です。なぜならば、合唱というものが憧れとか記憶といったものと無関係ではないからです。例えば3年生の課題曲について、相生中の合唱の最高到達点として長年にわたってこの体育館に響きわたってきた「モルダウ」…全くそれを知らない1年生はともかく、一度はそれを見たことのある2年生、3年生のみなさんは、「3年生になったら胸を張ってモルダウを歌いたい」という憧れを持っていたのではないのでしょうか。

それなのに、どうして課題曲を変えたのか？

その答えについて、当の3年生のみなさんならばうすうす気が付いているのではないのでしょうか。

その答えとは、「モルダウ」もよいが、「大地讃頌」は、もっとよいということです。実は、この「大地讃頌」、昔から中学生が歌う合唱曲の最高峰としてそびえ立っていたのです。毎年聴く者の魂を揺さぶるような合唱を実践してくれている今の相生中の3年生にぜひ「大地讃頌」を歌ってもらいたい…そんな思いが先生方の胸に浮かんできたとしても何の不思議もありません。私もその一人です。

もうお分かりでしょう。感動体験をなぞることも悪いことではありませんが、まだ出会ったことのない新しい価値を探し求めることも大切なのではないのでしょうか。人は、一般的にそのような行いを冒険とか挑戦と呼びます。

その意味において、今年の合唱コンクールは紛れもなく挑戦であり、冒険であると思います。

合唱コンクール本番を楽しみにしています。